

2012年度受託研究概要報告

三木市歴史文化ウォッチング業務

研究メンバー

川北健雄	デザイン学部環境・建築デザイン学科教授
長濱伸貴	デザイン学部環境・建築デザイン学科准教授
山之内誠	デザイン学部環境・建築デザイン学科准教授
金子晋也	デザイン学部環境・建築デザイン学科助手
不破正仁	デザイン学部環境・建築デザイン学科助手

委託者

三木市文化遺産活性化実行委員会

研究概要

三木市の中心部には、城址、歴史街道、町家および神社仏閣等の様々な歴史文化資源が存在しているが、それらは必ずしも有効にまちづくりに生かされていない。そこで、これらの存在を一般の方々に広く認知してもらうことを目的に、平成22年度、平成23年度に引き続き「Play Town MIKI!」と題した歴史文化ウォッチングを企画実施し、まちの魅力づくりに繋げる。

過去2回の「Play Town MIKI!」が親子でまちのあちらこちらを歩きまわってもらいながら、三木のまちの歴史文化を体験的に理解してもらうことを主眼としていたのに対し、今年度は、まちの歩き方については、昨年度制作した「MIKI-CITY PASSPORT」（三木市中心部の主な歴史文化スポットをまとめた冊子）を配布して自由に散策してもらう程度にとどめた。一方、企画の主会場を、①既にまちの歴史文化拠点のひとつとしての認識が定着しつつある国登録有形文化財の旧玉置家住宅、②同じく国登録有形文化財であるが、まだ十分な活用がなされていない旧小河家別邸、そして③文化財としての保存対象とはなっていない旧三木高等女学校の、の3か所に絞り、それらを「集まれ！キッズカメラマン～親子で巡る三木のレトロな魅力スポット」と題した写真撮影会の対象とすることによって、それぞれに時代背景と状況が異なるこれらの建物を、じっくりと見比べて観察してもらうことに重点を置いた。また、撮影された写真すべてを撮影会後の4日間、旧小河家別邸内で「ミキシル写真館」と題して展示した。

研究成果

平成25年3月20日の写真撮影会「集まれ！キッズカメラマン」においては、定員を子どもの数で50名と設定したが、受付を締切った3月13日の時点で子ども57人、保護者43人、合計100人の応募があり、撮影会当日に行ったアンケートからは、子ども78人、保護者53人、合計131人の参加があったことを確認できた。3月21日～3月24日の写真展示会「ミキシル写真館」においては、1日目に20名、3日目に18名、4日目に132名、合計170名の来訪者があった。なお、2日目は三木市内の小学校の終業式と重なったためか、来訪者が皆無であった。

保護者アンケートの結果からは、今回のイベントも第1回、第2回のイベントと同様に好評で、参加者に三木のまちに親んでももらい、歴史文化に対する認識を高めてもらう上で、たいへん有効であったことを確認できた。また、子どもアンケートの自由記述では、イベントの内容自体の楽しさについて述べてくれた感想が圧倒的に多かった。

以上のように、今回のようなイベントは、親と子の両方の世代に対して、地域の歴史文化資源についての認識を高めてまちに親んでもらうのに、たいへん有効であることを再確認することができた。このような地域の歴史文化資源に親しむための活動が、これからもより多くの地域の人々を巻き込んだ活動として、継続的に展開されていくことが重要であると考えられる。

